

## 保育者養成における紙芝居に関する研究 —保育内容言葉の観点から—

山本 聡子

### 1. はじめに

紙芝居は、絵本とともに保育における重要な児童文化財として、様々な形で保育の中に取り入れられている。幼稚園教育要領(文部科学省2017)の領域言葉のねらいと内容には、「(3)日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」「(9)絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう」とある。また、内容の取り扱いには「(3)絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結びつけたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること」「(4)幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること」とある。このように、絵本や物語などの児童文化財に親しむことは、乳幼児期の言葉の育ちに重要な役割を持つ。「絵本や物語など」とまとめられているが、その中には紙芝居や素話、パネルシアターなどが含まれると考えられる。

紙芝居、絵本のどちらも、絵と文によって表現される児童文化財ではあるが、それぞれ異なる特徴を持つ。紙芝居はもともと大衆の娯楽として発展してきたが、1930年には倉橋惣三が保育の教材としての紙芝居を評価しており、その後も今井よねによるキリスト教紙芝居、高橋五山による教育紙芝居が保育現場に活用されるようになっていったという経緯を持つ(鬢櫛ら2005)。そしてその感化力の高さから、戦時中は戦意高揚のため国策紙芝居が作成され、各地で演じられた(真鍋1998)。この歴史的な経緯から見てもわかるように、紙芝居は成り立ちからして演じ手と複数の観客たちがいて成立するものであり、高い共感性と観るものに訴えかける力があると考えられていることがわかる。領域言葉のねらいである「(3)日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」経験をするために、

紙芝居は絵本と同様に、保育に取り入れるのに適した児童文化財だと言える。

絵本と紙芝居の比較という観点でなされた先行研究では、まず、現場の保育者を対象にした紙芝居の活用状況についての調査で、紙芝居の大きな特徴の一つである舞台があまり使用されていないことが報告されている（鬢櫛ら 2010）。また、保育者養成校の学生を対象にした調査では、多くの学生が紙芝居を子どもの頃に楽しんだり、実習先で演じたりした経験を持ってはいるが、紙芝居と絵本の使い分けについての意識は低いということが明らかとなっており、保育者養成課程でどのように紙芝居についての学びをカリキュラムの中に取り入れるかが課題だと述べられている（鬢櫛ら 2011）。また、自身の幼少期と実習での紙芝居体験についてのアンケート調査から、保育学生は紙芝居の特別感を感じていながらも紙芝居の特性の理解が十分でなく、舞台を用いる重要性にも気づいていないこと、現場では園生活の隙間時間に子どもを集めたり落ち着かせたりするために使われる傾向があることが指摘されている（大元 2013）。これらの先行研究から、紙芝居が子どもに良いものとわかっていても、活かしきれていない現場の様子がうかがえる。

保育者は児童文化を目の前の子どもや次代に繋げていく役割を持つ。ただなんとなく児童文化財を消費するのではなく、それぞれの児童文化財の特性を理解し、適材適所に活用できる力を養成課程から身につけていくことが求められる。そのために、学生の現在の知識や感覚を把握することが重要である。

以上より本研究では、保育者養成課程で学ぶ学生が実際に読み比べた上で、絵本との比較を通して紙芝居の特徴をどう捉えているのかを明らかにする。得られた結果をもとに「保育内容 言葉」や「児童文化」など保育者養成課程の授業の改善していくことができると考える。

## 2. 対象と方法

対象となる学生は愛知県内の R 短期大学保育科 2 年生で、筆者が担当する選択科目「児童文化」の受講生 148 名（4 クラス）である。「児童文化」受講時までには保育実習 I（保育所）と教育実習 I をそれぞれ 2 週間経験している。紙芝居の基本的な演じ方については、1 年次の「教育実習法 I」の授業で取り上げられており、実習で演じた学生も多くいる。

2016 年 4 月 13、14 日の「児童文化」の授業（15 回中第 2 回目）で、同じお話を題材とした絵本と紙芝居の読み比べを 1 クラスあたり 6 グループ、計 24 グループで行った。1 グループは 6～7 人である。

読み比べには、同短期大学図書館が所蔵する作品を用いた。選択基準として、①「童話や民話など、学生が内容を知っているお話を素材にした作品（話の筋が同じならば異なるタイトルのものも含めた。『さるかにがっせん』と『さるむかし』、『つるのおんがえし』と『つるにようぼう』、『つるのあねさ』、『はなさかじいさん』と『はなさかじい』など）、②「絵本も紙芝居も複数の種類を所蔵しているもの」をあらかじめ教員が10種選んだ（付表1参照）。該当するタイトルであっても、大型絵本としかけがメインの絵本、また、「かみしばい」と銘打たれていても実際は絵本の体裁をとっているものを除いた。複数ある絵本と紙芝居の中から、対象年齢が高い（文章が長い、漢字混じり等）と考えられるものを除いた幼児向きの作品を2種類ずつ、学生が話し合って選択したのち、それぞれのグループ内で、選択した絵本と紙芝居の読み聞かせを行った上で、「絵本と紙芝居の共通点」と「それぞれの特徴」をテーマに話し合った。紙芝居を演じる際には紙芝居舞台を使用した。意見はグループごとにメンバーが記録した。話し合いの所要時間は読み聞かせも含めて約70分である。話し合いの記録はKJ法（川喜田 1967、中坪ら 2012）を用いて分析した。

なお、話し合いの前に、話し合いの内容を研究データとして用いること、研究参加への拒否が保証されていること、拒否の意思表示の方法、匿名性は担保されることを参加学生に口頭で説明し、承諾を得た。

付表1 読み比べに使用した紙芝居および絵本

	紙芝居	絵本
かぐや姫	かぐやひめ 日本名作おとぎばなし・むかしむかしあったとさ 岩崎京子 脚本 遠藤てるよ 画 童心社 1986	かぐやひめ 絵本むかしばなし 20 朝倉撰 絵 与田準一文 国土社 1976
	かぐやひめ 紙芝居むかしばなし第2集 福島のり子 文 岩本圭永子 画 教育画劇 1980	かぐやひめ フレーベルのえほん 116 にほんみんわシリーズ 横皓志 文 黒崎義介 絵 フレーベル館 1977
さるかに合戦	さるかにがっせん 紙芝居むかしばなし第1集 長崎源之助 作 若菜珪 画 教育画劇 1979	さるかにむかし じぶんで読む日本むかし話 17 小沢正文 前川かずお 絵 偕成社 1990
	はじめてのさるとかに 教育画劇のかみしばいはじめての日本むかしばなし 年少向かみしばいむとうのりこ 絵 教育画劇 2015	さるとかに 第2版 みんなでようよう!日本の昔話 6 小沢正 渡辺三郎 絵 チャイルド本社 2002
	さるとかに むかしむかしあったとさ にほんめいさくおとぎばなし 松谷みよ子 脚本 西巻茅子 画 童心社 1986	さるとかに 銀河社の創作絵本 神沢利子 文 赤羽末吉 絵 銀河社 1974
	はじめてのうらしまたろう 教育画劇のかみしばいはじめての日本むかしばなし 年少向かみしばい 霜田あゆ美 絵 教育画劇 2015	うらしまたろう フレーベルのえほん 106 ひえださいこ ゆのせいいち 著 フレーベル館 1976

保育者養成における紙芝居に関する研究

うらしまたろう	うらしまたろう 日本名作おとぎばなし むかしむかしあったとき 若林一郎 脚本 西山三郎 画 童心社 1986	うらしまたろう むかしむかしえほん 20 大川悦生 文 村上幸一 絵 ポプラ社 1971
	うらしまたろう ほるぶの紙芝居 日本昔ばなしシリーズ 片岡輝 脚本 古川タク 画 ほるぶ出版 1983	うらしまたろう 絵本むかしばなし 3 ふくだしょうすけ 絵 坪田譲治 文 国土社 1987
	うらしまたろう 紙芝居むかしばなし第1集 奈街三郎 文 工藤市郎 画 教育画劇 1979	うらしまたろう 日本むかし話 松谷みよ子 文 岩崎ちひろ 絵 偕成社 1967
あかずきん	はじめてのあかずきん教育画劇のかみしばい：はじめての世界めいさく：年少向かみしばい 原ベコリ 絵 教育画劇 2015	あかずきん こどものとも 復刻版 80 グリム 原作 大塚勇三 訳 宮脇公実 画 福音館書店 1996
	あかずきん グリム童話 田口俊雄 脚色・解説 井の上正之 画 教育画劇 1986	あかずきんちゃん 世界の名作おはなしの森 2 シャルル・ペロー 原作 ホセ・ラバレイヨ 絵 久米稜 文 講談社 1994
	あかずきんちゃん 世界の名作 第1集 グリム 原作 小林純 脚本 篠崎三 画 童心社 1986	あかずきん せかいのむかしばなし 神沢利子 文 岩本康之亮 絵 チャイルド本社 1979
		あかずきんちゃん ポール・ガルドン 作 湯浅フミエ 訳 ほるぶ出版 1976
		あかずきんちゃん えほんせかいのめいさく 1 グリム 作 谷真介 文 赤坂三好 絵 あかね書房 1976
舌切り雀	したきりすずめ 松谷みよ子 民話珠玉選 松谷みよ子 脚本 堀内誠一 画 童心社 1984	したきりすずめ愛蔵版 日本むかし話 瀬川康男 絵 松谷みよ子 文 フレーベル館 2003
	したきりすずめ ほるぶの紙芝居 日本昔ばなしシリーズ 岡信子 脚本 織茂恭子 画 ほるぶ 1983	したきりすずめ第2版 みんなでよう！日本の昔話 2 木暮正夫 文 遠藤てるよ 絵 チャイルド本社 2002
	したきりすずめ 紙芝居むかしばなし第1集 安田浩 作 輪島みなみ 画 教育画劇 1979	したきりすずめ えほんむかしばなし 3 筒井敬介 文 村上勉 絵 あかね書房 1977
		したきりすずめ フレーベルのえほん 104 にほんみんなわシリーズ 司修 文・絵 フレーベル館 1976
		したきりすずめ むかしむかし絵本 16 松谷みよ子 文 村上幸一 絵 ポプラ社 1968
三枚のお札	やまंबと三まいのおふだ (前編) 花井巴意 作 福田岩緒 画 教育画劇 1987	さんまいのおふだ第2版 みんなでよう！日本の昔話 7 木暮正夫 文 箕田源二郎 絵 チャイルド本社 2002
	やまंबと三まいのおふだ (後編) 花井巴意 作 福田岩緒 画 教育画劇 1987	さんまいのおふだ 新潟の昔話 こどものとも傑作集 69 水沢謙一 再話 梶山俊夫 画 福音館書店 1985
	三まいのおふだ 名作民話おはなし広場 長崎武昭 脚色 杵渕やすお 画 NHK サービスセンター 1984	

	三枚のおふだ NHK かみしばい にほんのむかしばなし 石山透 脚色 福田庄助 画 NHK サービスセンター 982	
花咲か爺さん	はなさかじいさん 日本名作おとぎばなし・むかしむかしあったとさ 与田準一 脚本 岡野和 画 童心社 1986	はなさかじいさん第2版 みんなでよう!日本の昔話1 鶴見正夫 文 田木宗太 絵 チャイルド本社 2002
	はなさかじい ぼるぶの紙芝居 日本昔ばなしシリーズ 瀬名恵子 脚本・絵 ぼるぶ出版 1983	はなさかじいさん フレーベルのえほん108 にほんみんわシリーズ 柴野民三 文 井口文秀 絵 フレーベル館 1976
	はなさかじい 紙芝居むかしばなし第1集 浜田広介 作 黒崎義介 画 教育画劇 1979	
わらしべ長者	わらしべちょうじゃ 名作民話 おはなし広場 松岡励子 脚色 清水耕蔵 画 NHK サービスセンター 1984	わらしべ長者 絵本むかしばなし24 北川幸比古 文 新井リコ 絵 国土社 1977
	わらしべちょうじゃ 吉野弘子 文 木佐森隆平 画 教育画劇 1983	わらしべちょうじゃ フレーベルの絵本114 にほんみんわシリーズ 宮沢章二 文 深沢省三 絵 フレーベル館 1977
		わらしべちょうじゃ むかしむかし絵本17 西郷竹彦 文 佐藤忠良 絵 ポプラ社 1971
かさ地蔵	はじめてのかさじぞう 教育画劇のかみしばい はじめての日本むかしばなし年少向かみしばい 小田切信二 絵 教育画劇 2015	かさじぞう はじめてのおはなし絵本20 間所ひさこ 文 黒井健 絵 講談社 1996
	かさじぞう 紙芝居むかしばなし第2集 長崎源之助 文 箕田源二郎 画 教育画劇 2008	かさじぞう こどものとも 復版58 瀬田貞二 案 赤羽末吉 画 福音館書店 1996
	かさじぞう 松谷みよ子民話珠玉選 松山文雄 画 童心社 1984	かさじぞう 十二月(年越のはなし)行事むかしむかし 谷真介 文 赤坂三好 絵 俊成出版社 1995
		かさじぞう 日本の民話絵本6:新潟県 吉沢和夫 文 遠藤てるよ 絵 第一法規出版 1981
		かさじぞうさま フレーベルのえほん103 にほんみんわシリーズ 西本鶏介 文 黒崎義介 絵 フレーベル館 1975
つるのおんがえし	つるのおんがえし 紙しばい名作選 坪田譲治 脚本 中尾彰 画 童心社 1994	つるのおんがえし 日本むかし話 松谷みよ子 作 いわさきちひろ 絵 偕成社 1966
	つるのおんがえし 紙芝居むかしばなし第2集 岡上鈴江 文 輪島みなみ 画 教育画劇 1980	つるにようぼう 日本の民話絵本15 鳥取県 高橋宏幸 文・絵 第一法規出版 1982
		つるのあねさ おはなし名作絵本26 大川悦生 文 石倉欣二 絵 ポプラ社 1977
		つるにようぼう むかしむかし絵本7 神沢利子 文 井口文秀 絵 ポプラ社 1967

### 3. 結果と考察

箇条書きで書かれた話し合いの記録から、「絵本と紙芝居の共通点」として74、「絵本の特徴」として129、「紙芝居の特徴」として142のデータを得た。そこから、「どちらも着物を着ている」「絵本では結婚するが紙芝居では結婚しない」「どちらもハッピーエンド」「どちらも昭和のもの」など、個々のストーリーに関するものや出版年に関するものなど、紙芝居や絵本としての共通点・特徴とは考えられないものを除いた46、120、133のデータを分析対象とした。

分析の第1段階として、同じような意味内容でまとめてグループ化し、小カテゴリーとして名称をつけた。その内容をさらに検討し、相互の関連を考慮しつつ、中・大カテゴリーにまとめ名称をつけた。以上の手順による分析の結果、学生が読み比べで捉えた「絵本と紙芝居の共通点及びそれぞれの特徴」は以下のように整理された（文中の「」は小カテゴリー、『』は中カテゴリー、【】は大カテゴリーの名称を記した）。

#### 3-1. 紙芝居と絵本の共通点

まず、学生たちの捉えた<紙芝居と絵本の共通点>について見ていく。共通点としては、①【絵と文からなる】、②【読み聞かせができる】③【作り手側の配慮】の3つの大カテゴリーを生成した。

①【絵と文からなる】では、学生たちはどちらも絵と文章で構成された作品であることに着目している。「絵にお話が付いている」ため、「絵を見て楽しむ」ことに加えて「絵でイメージを膨らませる」ことができること、同じ昔話では「絵にするポイント」も似通っていること、「めくって場面転換」をすることに言及している。

②【読み聞かせができる】では、絵本も紙芝居も、「大人数で見る」こともでき、読み聴かせてもらうことで、「発達への良い影響」も期待できることが出された。また、そのために必要な『読み聞かせ時の配慮』としては、事前に「読み込み」が必要であり、「読み方に工夫」して読み聞かせをすること、「聞き手の反応を見る」ことが大切であるという点が共通点として挙げられた。

③【作り手側の配慮】では、見る側への『分かりやすさへの配慮』として、「言葉や話の分かりやすさ」が工夫されているが、その程度は「書き手によって違う」という考えが示された。また同じ昔話でも「対象年齢は様々」で、対象年齢についての「タイトルへの表示」や場面数、1場面ごとの文量の「ボリューム調節」で『異年齢への対応』がなされていることへの気づきが挙げられた。例として、紙芝居『はじめてのあかずきん』（教育

画劇のかみしばい；はじめての世界めいさくシリーズ、原ペコリ絵 教育画劇 2015) を挙げる。この紙芝居は、紙芝居経験の少ないと思われる年少児向けに制作され、場面数は12場面であって平均的だが、一場面あたりの脚本の文章量が3～5行程度に収められており、テンポよくストーリーが語られるようになっている点が年少児への配慮を感じさせる。絵本の方でも、文章量の多めのもと簡潔な表現で文章量の少な目なものがあり、読む子どもの年齢によって選べるようにという配慮がなされていることがわかる。

### 3-2. 絵本の特徴

続いて、〈絵本の特徴〉は、①【読むもの】②【細かい表現】③【手に持って読み聞かせ】の3つの大カテゴリーにまとめられた。

①【読むもの】としては、絵とともに『文字も見える』ため「一人でも読める」。また、基本的には文章と絵で成り立つが、「絵だけのページ」があることもある。次に、『造りの機能』の面では、ページは「ただめくるだけ」で「手軽」に読める上、本文中の「仕掛け」や、表紙の期待感、裏見返しや裏表紙が生む余韻など「本の体裁の機能」も楽しめる。また、読み方に関しては、読み聞かせの際の「演出が読み手まかせ」である点が絵本の特徴として挙げられた。

「本の体裁の機能」の例として、『わらしべちょうじゃ』（フレーベルの絵本 114 にほんみんわシリーズ 宮沢章二 文 深沢省三 絵 フレーベル館 1977) の場合、表紙には物語全体を象徴する絵(主人公の若者がわらしべの先に虫を結んだものを持って歩いている)が描かれており、それを見ながらタイトルと作者名を読むこととなる。開くと見返しはのちに語られるお話の内容を連想させる絵(わらしべを持った若者と馬、遠景に山)が単色のシルエットで描かれているのが目に入る。さらにめくるともう一度中表紙に、物語の始まりを象徴する絵(俯いてトボトボ歩く若者)が描かれたうえにもう一度タイトルと作者名等が現れ、まためくったところでようやく「むかしむかし…」と物語が始まる。全体的なイメージを表紙や見返しを見て、さらに時間的にも3回ページをめくる間を要する。一方同じわらしべ長者の物語でも、紙芝居『わらしべちょうじゃ』(吉野弘子 文 木佐森隆平 画 教育画劇 1983) では、舞台の扉を開くと、物語の始まりのシーンの絵(主人公の若者が質素な家の囲炉裏端でうなだれ目を閉じている)とともにタイトル、作者名などが目に飛び込んでくると同時に、文章が読み始められ、物語が始まることになる。終わりも同じように、絵本の方では「おしまい」で本文が終わった後、奥付、裏見返しと順に見ていき、裏表紙を眺めて終わることになる。学生の話し合いの記録にも、「お話の余韻を楽

しむことができる」とデータ例があり、絵本の造りから生まれる特徴を読み比べから学生が捉えたといえよう。

②【細かい表現】としては、絵本は紙芝居に比べて『視覚的な細かさ』があり、「絵が細かい」という特徴とともに、見開きがページの上では二分され別々の場面の描写に当てられることもあることから「場面展開が細かい」という特徴が示された。そのため文章での「説明が少ない」作品もあるが、概ね「詳しく説明的」で「地の文が多い」ことも指摘された。以上のことから、絵だけではなく『文章が細かい』と感じられ、『少人数、近距離向き』である。

③【手に持って読み聞かせ】について、絵本の読み聞かせの際は、手に持っている絵本は読み手の顔を隠さない位置に構えるため「互いに顔が見える」ので「コミュニケーションが取りやすい」こと、「読み手も絵が見える」ので絵を指差しやすい、感情を込めやすい、見やすいよう「調節可能」なことなどが『手に持って読むメリット』として挙げられた一方で、「不安定」さが『手に持って読むデメリット』として出された。

### 3-3. 紙芝居の特徴

続いて、学生の捉えた<紙芝居の特徴>として挙げた3点の大カテゴリー①【演じるもの】②【簡潔な表現】③【紙芝居特有の難しさ】について述べる。

①【演じるもの】では、紙芝居の文章が「話し言葉主体」の『脚本形式』で書かれ、「演出」を参考にしながら「声で演じる」ものであること、『舞台の使用』をして「演じ手と聞き手」に分かれて「問いかけ」や「抜きの効果」を活かして演じられることが特徴として挙げられた。また、『舞台の使用』のために抜きの「向きは一定」という形式の中で演じることになるが、「舞台の安定感」があるため、ゆっくり抜く・さっと抜く・動かしながら抜く・途中まで抜いて止めるなど、演じ方を工夫しやすい。

②【簡潔な表現】では、見た目の特徴として、『視覚的にシンプル』で、「絵が大きくシンプル」なため見やすく、「絵からのイメージ喚起」がしやすいこと、観客から見えるのは「絵だけ」のため集中できる絵に集中できることが示された。文章の面では、作品によっては「説明が多い」が、基本的には「文が平易」かつ「展開が単純」で『話がシンプル』なため、わかりやすく引き込まれることを挙げており、「大人数向き」に作られていると捉えていることがわかる。

③【紙芝居特有の難しさ】では、『舞台使用の弊害』として、「固定的」で角度や高さを変えにくいこと、「演じ手から絵を見辛い」、「声がこもる」、双方の「顔が見え辛い」ため



コミュニケーションが取り辛いことがあることが挙げられた。ただ読むだけでなく演じる必要があるため、下読みや抜きの練習など『準備の手間』がかかり手軽に読めない点についても特徴として挙げられた。

#### 4. まとめ

同じ話の紙芝居と絵本を実際に読み比べ検討したことで、紙芝居と絵本には共通点もあるがそれぞれの表現方法や造りに特徴を持ち、その特徴と目的に合うような工夫が来られていることに気づくことができた。改めて、紙芝居が演じるものであること、そのために表現や造りに様々な工夫が凝らされていることが学生の話し合いの中で指摘された。

それぞれの特徴を踏まえた上で、絵本を手軽で身近に感じるのとは対比的に、紙芝居に対してとっつきづらさを感じて構えてしまう気持ちも明らかとなった。しかしここから、「絵本は下読みなどの準備が不要でパッと手に取って読んで終わりが良い」という、絵本を軽んずる姿勢にもつながることが危惧される。保育者養成課程において、児童文化材全般の理解を深める必要があるといえよう。

また、紙芝居に舞台は必須であるとの発言も多かったが、「舞台のせいで声がこもる。観客の顔が見えないため紙芝居はコミュニケーションを取りづらい」との声もあった。これは学生の誤解であって、演じ手は舞台に隠れるのではなく、顔を出しやりとりしながら演じるものと1年時に学習している。しかし学んだ後に実際に演じてみる機会がない場合や、実習に行っても保育者が演じるのを見たり学生自身が紙芝居を演じたりができたとしても、現場では舞台を使っていない場合が多いため、身についていなかったとも推測される。

今回、学生たちが話し合っ出された意見の中には、保育の中で取り入れる際に欠かせない「ねらい」「伝えたい内容」「取り入れる時間帯」という観点は見られなかった。まだ実際の保育の流れの中に位置付けて捉えるのは難しいことが分かった。

今回明らかになったことをベースに、「保育内容 言葉」の観点から、領域言葉のねらいにある「先生や友達と心を通わせる」経験に適した紙芝居の特性を保育学生がより深く学び、紙芝居の良さを生かして保育の中に取り入れる力をつけていけるようなカリキュラム作りに繋げていきたい。

<引用文献>

- 鬢櫛久美子・種市淳子（2005）「保育におけるメディアとしての紙芝居：紙芝居通史を中心に」  
名古屋柳城短期大学紀要 27 53-67
- 鬢櫛久美子・野崎真琴（2010）「保育現場における紙芝居の活用状況」名古屋柳城短期大学紀要 32 65-75
- 鬢櫛久美子・野崎真琴（2011）「保育者養成課程における紙芝居 2 - 学生のアンケート調査を通して」
- 川喜田二郎（1967）『発想法』中央公論社
- 中坪史典・中西さやか・境愛一郎（2012）『子ども理解のメソドロジー』第2章「子ども理解の方法としてのKJ法」19-34
- 真鍋昌賢（1998）「戦時下における教育紙芝居の上演現場：口頭芸と国家の関係をめぐる一考察」大阪大学大学院文学研究科 待兼山論叢. 日本学篇 32 1-24
- 文部科学省（2017）「幼稚園教育要領」
- 大元千種（2013）「保育現場における紙芝居の活用の課題 - 保育学生の紙芝居経験を手掛かりとして -」筑紫女学園大学短期大学部紀要 8 177-188

<付記>

本研究の成果の一部は、日本子ども社会学会第23回大会にて口頭発表を行った。

## A Study about the Picture-story Show in Nursery Teacher Training Course: From the Viewpoint of “Language”

Yamamoto, Satoko\*

本稿では、保育の中でも重要な児童文化である紙芝居と絵本について、「保育内容 言葉」の観点から、領域言葉のねらいにある「先生や友達と心を通わせる」経験に適した紙芝居の特性を保育学生がより深く学ぶ授業実践に寄与するため、保育学生らが同じお話をもとに作られた紙芝居と絵本作品を読み比べて話し合った内容を KJ 法を用いて分析し、保育学生の捉えた紙芝居・絵本の特徴を明らかにした。その結果、保育学生の捉えた紙芝居と絵本の共通点として「絵と文からなる」「読み聞かせができる」「作り手側の配慮」の3点、紙芝居の特徴として「演じるもの」「簡潔な表現」「紙芝居特有の難しさ」の3点、絵本の特徴として「読むもの」「細かい表現」「手に持って読み聞かせ」の3点が明らかになった。

キーワード：保育内容 言葉, 紙芝居, 保育者養成

